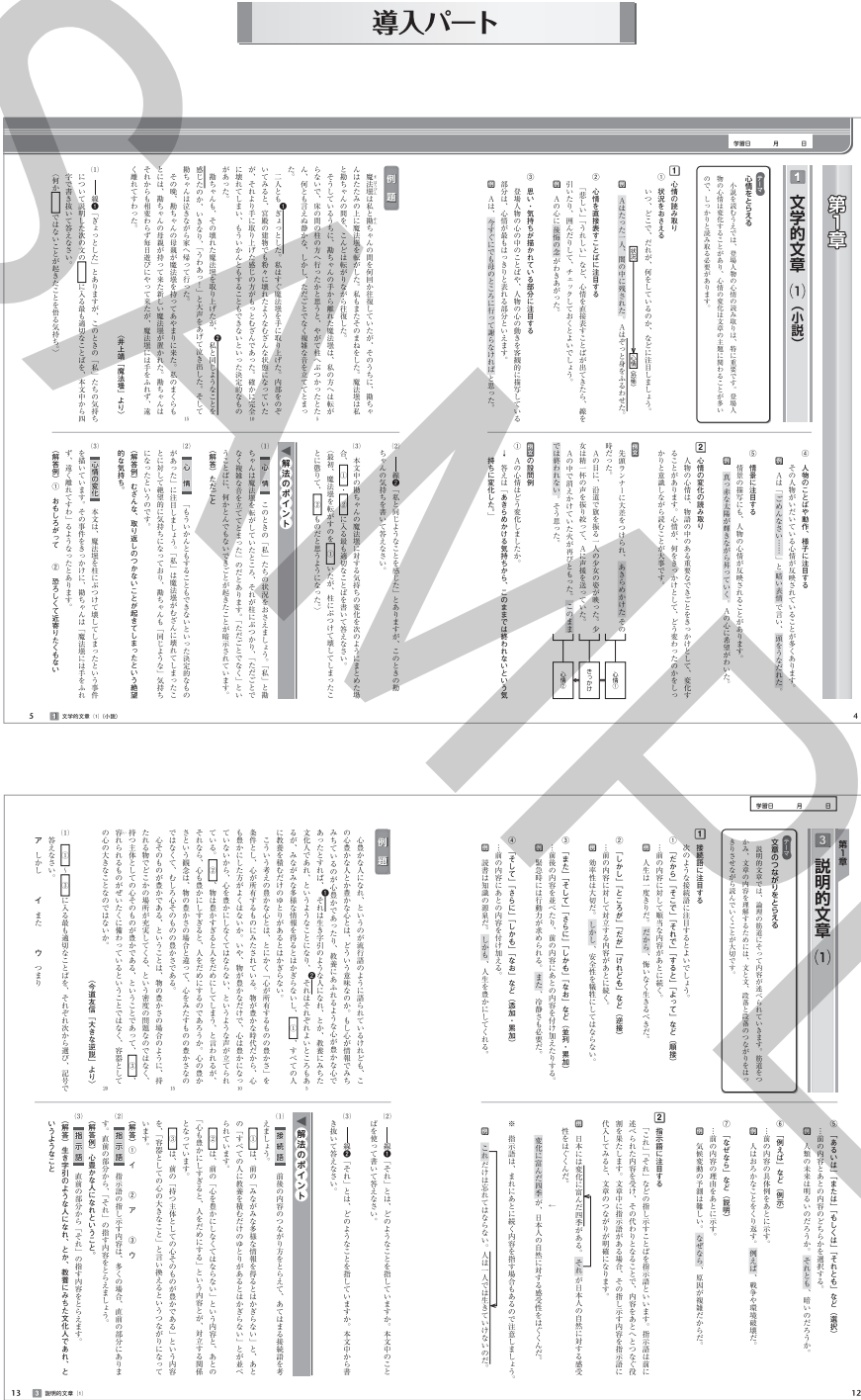


## 本書の構成

本書は、全体が十の章に分かれています。一つの章は四単元で構成されています。前半の単元では、読解の基本である「文学的文章」と「説明的文章」を中心に学び、中盤以降ではそれらに加えて、「詩・短歌・俳句」の韻文単元、「古典」、「文法」、「漢字・語句」をバランスよく組み合わせています。一章四単元というステップをこなすことで、国語の学力を無理なく高めることができます。いくつかの単元には、導入パートが設けられており、その単元に取り組みにあたっての、基本的な考え方を学習することができます。



# 目次 国語 Vol.2 α

## 第1章

1 文学的文章 (1) (小説) …………… 4

2 文学的文章 (2) (小説) …………… 8

3 説明的文章 (1) …………… 12

4 説明的文章 (2) …………… 16

## 第2章

5 文学的文章 (3) (随筆) …………… 20

6 文学的文章 (4) (随筆) …………… 24

7 説明的文章 (3) …………… 28

8 説明的文章 (4) …………… 32

## 第3章

9 文学的文章 (5) (小説) …………… 36

10 説明的文章 (5) …………… 40

11 詩 (1) …………… 44

12 漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち/部首) …………… 48

## 第4章

13 文学的文章 (6) (随筆) …………… 52

14 説明的文章 (6) …………… 56

15 古典 (1) …………… 60

16 漢字・語句 (2) (音読みと訓読み/熟語の組み立て) …………… 64

## 第5章

17 文学的文章 (7) (随筆) …………… 68

18 説明的文章 (7) …………… 74

19 短歌・俳句 (1) …………… 78

20 文法 (1) (名詞) …………… 82

## 第6章

21 文学的文章 (8) (随筆) …………… 86

22 説明的文章 (8) …………… 92

23 詩 (2) …………… 96

24 文法 (2) (動詞/形容詞/形容動詞) …………… 100

第7章

25 文学的文章 (9) (隨筆) .....

26 说明的文章 (9) .....

27 短歌・俳句 (2) .....

28 漢字・語句 (3) (ことわざ/慣用句) .....

第8章

29 文学的文章 (10) (小説) .....

30 说明的文章 (10) .....

31 詩 (3) .....

32 文法 (3) (副詞/連体詞/接続詞/感動詞) .....

第9章

33 文学的文章 (11) (小説) .....

34 说明的文章 (11) .....

35 詩 (4) .....

36 漢字・語句 (4) (四字熟語/故事成語) .....

第10章

37 文学的文章 (12) (小説) .....

38 说明的文章 (12) .....

39 古典 (2) .....

40 文法 (4) (助詞/助動詞) .....

付録：漢字練習 1 ~ 40 .....

# 第1章

## 1 文学的文章 (1) (小説)

### テーマ 心情をとらえる

小説を読むうえでは、登場人物の心情の読み取りは、特に重要です。登場人物の心情は変化することがあり、心情の変化は文章の主題に関わることが多いので、しっかりと読み取る必要があります。

### 1 心情の読み取り

#### ① 状況をおさえる

いつ、どこで、だれが、何をしているのか、などに注目しましょう。



**例** Aはたった一人、闇の中に残された。Aはぞつと身をふるわせた。

#### ② 心情を直接表すことばに注目する

「悲しい」「うれしい」など、心情を直接表すことばが出てきたら、線を引いたり、囲んだりして、チェックしておくとういでしょう。

**例** Aの心に後悔の念がわきあがった。

#### ③ 思い・気持ちが描かれている部分に注目する

登場人物の心の中のことばや、人物の心の動きを客観的に描写している部分は、心情が最もはっきりと表れる部分といえます。

**例** Aは、今すぐにも母のところに行って謝らなければと思った。

#### ④ 人物のことばや動作、様子に注目する

その人物が言っている心情が反映されていることが多くあります。

**例** Aは「ごめんなさい……」と暗い表情で言い、頭をうなだれた。

#### ⑤ 情景に注目する

情景の描写にも、人物の心情が反映されることがあります。

**例** 真っ赤な太陽が輝きながら昇っていく。Aの心に希望がわいた。

### 2 心情の変化の読み取り

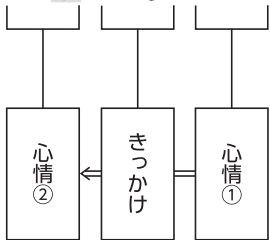
人物の心情は、物語の中のある重要なできごとをきっかけとして、変化することがあります。心情が、何をきっかけとして、どう変わったのかをしっかりと意識しながら読むことが大事です。

#### 例文

先頭ランナーに大差をつけられ、あきらめかけたその時だった。

Aの目に、沿道で旗を振る一人の少女の姿が映った。少女は精一杯の声を振り絞って、Aに声援を送っていた。

Aの中で消えかけていた火が再びともった。このままでは終われない。そう思った。



#### 例文の設問例

① Aの心情はどう変化しましたか。

↓ 答えは「あきらめかける気持ちから、このままでは終われないという気持ちに変化した。」

(2) — 線②「私と同じようなことを感じた」とありますが、このときの勘ちゃんの気持ちを書いて答えなさい。

(3) 本文中の勘ちゃんの魔法壇に対する気持ちの変化を次のようにまとめた場合、①・②に入る最も適切なことばを書いて答えなさい。

〈最初、魔法壇を転がすのを①いたが、柱にぶつけて壊してしまったことに懲りて、②ものだと思おうようになった。〉

解法のポイント

(1) **心情** このときの「私」たちの状況をおさえましょう。「私」と勘ちゃんは魔法壇を転がしていたところ、それが柱にぶつかり、「ただごとでなく複雑な音を立ててとまった」のだとあります。「ただごとでなく」ということばに、何かとんでもないできごとが起きたことが暗示されています。  
(解答) ただごと

(2) **心情** 「もういかんともすることもできないといった決定的なものがあった」に注目しましょう。「私」は魔法壇がむざんに壊れてしまったことに対して絶望的に気持ちになっており、勘ちゃんも「同じような」気持ちになったということです。

(解答例) むざんな、取り返しつかないことが起きてしまったという絶望的な気持ち。

(3) **心情の変化** 本文は、魔法壇を柱にぶつけて壊してしまったという事件を描いています。その事件をきっかけに、勘ちゃんは「魔法壇には手をふれず、遠く離れてすわ」るようになったとあります。

(解答例) ① おもしろがって ② 恐ろしくて近寄りたくもない

〈井上靖「魔法壇」より〉

(1) — 線①「ぎよっとした」とありますが、このときの「私」たちの気持ちについて説明した次の文の□□に入る最も適切なことばを、本文中から四字で書き抜いて答えなさい。

〈何か□□ではないことが起きたことを悟る気持ち。〉

確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈川端康成「夏の靴」より〉

□(1) **語句** 〰〰線部「上気させて」とありますが、「上気」のここの意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア ほてること
- イ ふくらませること
- ウ かがやくこと
- エ はずかしがること

□(2) **内容理解** 線部「街道の子供たちは勘三の馬車に一番目をつけているが、また一番恐れている」とありますが、街道の子供たちが、①「一番目をつけている」理由と、②「一番恐れている」理由を、それぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 勘三が馬を大変愛しているから。
- イ 勘三の馬車だけが八人乗りで、一番きれいだから。
- ウ 勘三がとても神経質だから。
- エ 勘三の馭者台からとび下りる身振りが軽快だから。
- オ 勘三には子供が馬車にぶら下がったことがすぐにわかるから。

①
②

□(3) **場面構成** ①この文章全体を、普段のことを述べた前半部分と、現在のことを描いた後半部分の二つに分けた場合、後半部はどこからになりますか。本文中からその最初の五字を書き抜いて答えなさい。また、②後半部に挿入された、普段の勘三の行動を説明している部分を探し、その最初の五字を書き抜いて答えなさい。

②	①

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈辻邦生「夏の砦」より〉

□ (1) 語句 — 線①「そむけ」、 — 線②「背いて」の意味として最も適切なものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア 逆らって      イ うつむいて

ウ そらして      エ ゆがめて

オ かくれて      カ はなれて

①	
②	

□ (2) 心情 — 線③「半ば鼻をひくつかせながら」とありますが、これは「私」のどんな気持ちを表していますか。本文中の同じ段落から三つ、それぞれ四字以内で書き抜いて答えなさい。

□	□	□
□	□	□
□	□	□

□ (3) 内容理解 ※ に入る最も適切なことばを次から選び、記号で答えなさい。

ア お前があんなものを持っていると疑われるからね

イ お前はそんなに松だけが欲しかったのか

ウ もうあの山には毒きのこしかできないんだ

エ もうあの山はうちのものじゃなくなつたんだ

□
---